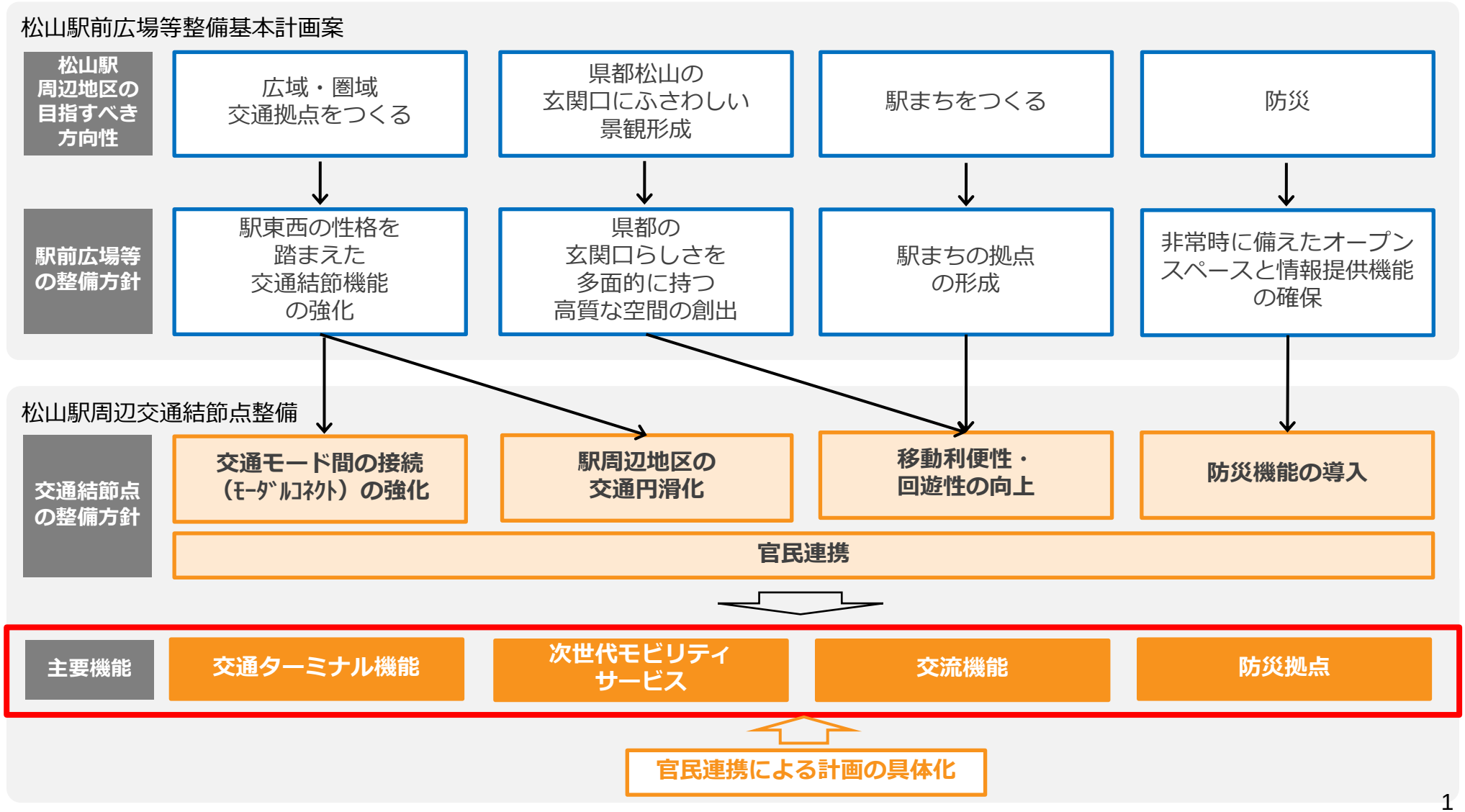
資料2

交通結節機能強化の方向性

1. 交通拠点への導入機能
2. 交通拠点に求められる機能
3. 交通結節機能強化の考え方

1. 交通拠点への導入機能

○松山駅前広場等整備基本計画案を踏まえ、「交通ターミナル機能」、「次世代モビリティ機能」、「交流機能」、「防災機能」を松山駅を中心とする交通拠点への導入機能とする。



1. 交通拠点への導入機能

交通ターミナル機能

・点在するバス、タクシー、一般車の乗降場・待機場・短時間駐車場などを集約し、鉄道や路面電車、シェアモビリティなどを含めて、多様な交通モード間の接続（モーダルコネクト）の強化を図る。
・自動車、歩行者、自転車の動線をできるだけ分離し、安全性の向上と交通の円滑化を図る。
・愛媛、四国を牽引する広域交通拠点、松山都市圏や中心市街地内など、市民等の日常の移動拠点として、利便性の高い拠点整備を図る。

次世代モビリティサービス

・次世代モビリティサービスの導入や自動運転化への対応など、未来志向の交通拠点整備を図る。
・公共交通でのアクセスが容易でない施設や観光地であっても来訪しやすく、多様なモビリティの選択が可能な拠点整備を図る。
・既存公共交通と連携した次世代モビリティサービスの導入により、公共交通の利便性を高め、個人所有車での移動を減らすことで、駅周辺道路等の混雑の緩和を図る。

交流機能

・東西の駅前広場、周辺施設や街路だけでなく、松山市駅前などの周辺エリアとも一体となった駅まち空間の形成を図る。
・観光客やビジネス客などへの移動案内の充実や待合空間の確保等、利便性向上や地域の魅力発信を図る。
・駅前広場の賑わい･憩い空間の創出とともに、大手町通り等の周辺街路の回遊性向上、中心部と郊外･県外とのアクセス向上により、松山の歩いて暮らせるまちづくりを推進する。

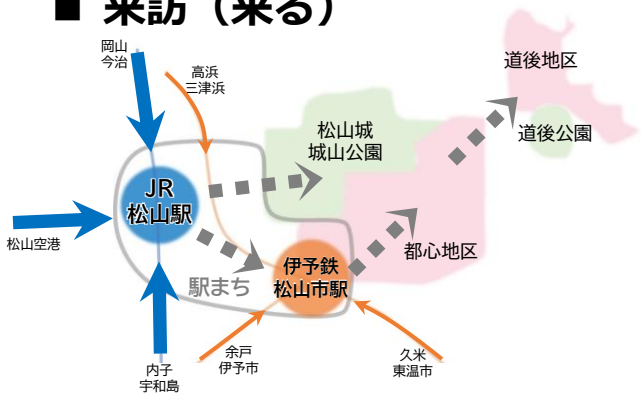
防災拠点

・災害に伴う交通機関被災時や運転見合わせ時において、交通拠点に滞留する帰宅困難者の受入れ、支援物資提供のための物資備蓄空間（機能）を確保する。
・鉄道被災時の代替交通として、支援のための人を運ぶ都市間バスの発着拠点となる。

2. 交通拠点に求められる機能

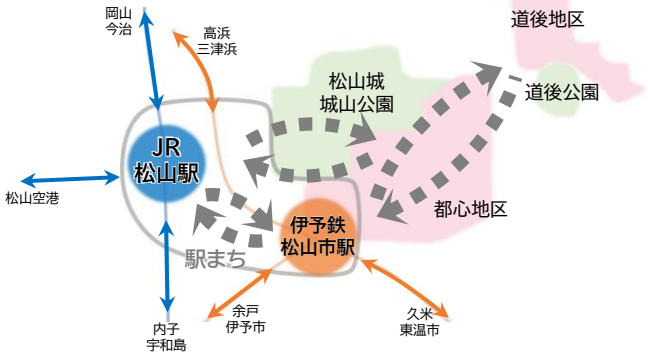
JR松山駅を交通拠点とし、松山市駅や周辺エリアへの移動（ケース）を想定。検討にあたっては下記事項に配慮する。

■ 来訪（来る）



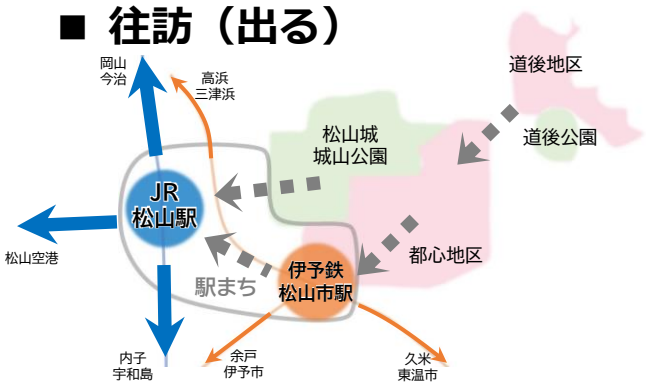
- 観光客やビジネス客などへの移動案内の充実
- まちや観光地へスムーズに移動できる多様な交通手段とモーダルコネクトの強化
- 地域の魅力の情報発信
- 被災地支援のための人の到着拠点

■ 滞在・生活（いる）



- 日常の買い物や散歩で気軽に立ち寄れる賑わいや憩いの場
- まちなかをスムーズに移動できる多様な交通手段とモーダルコネクトの強化
- 災害時の帰宅困難者の一時的な受入れや物資備蓄

■ 往訪（出る）

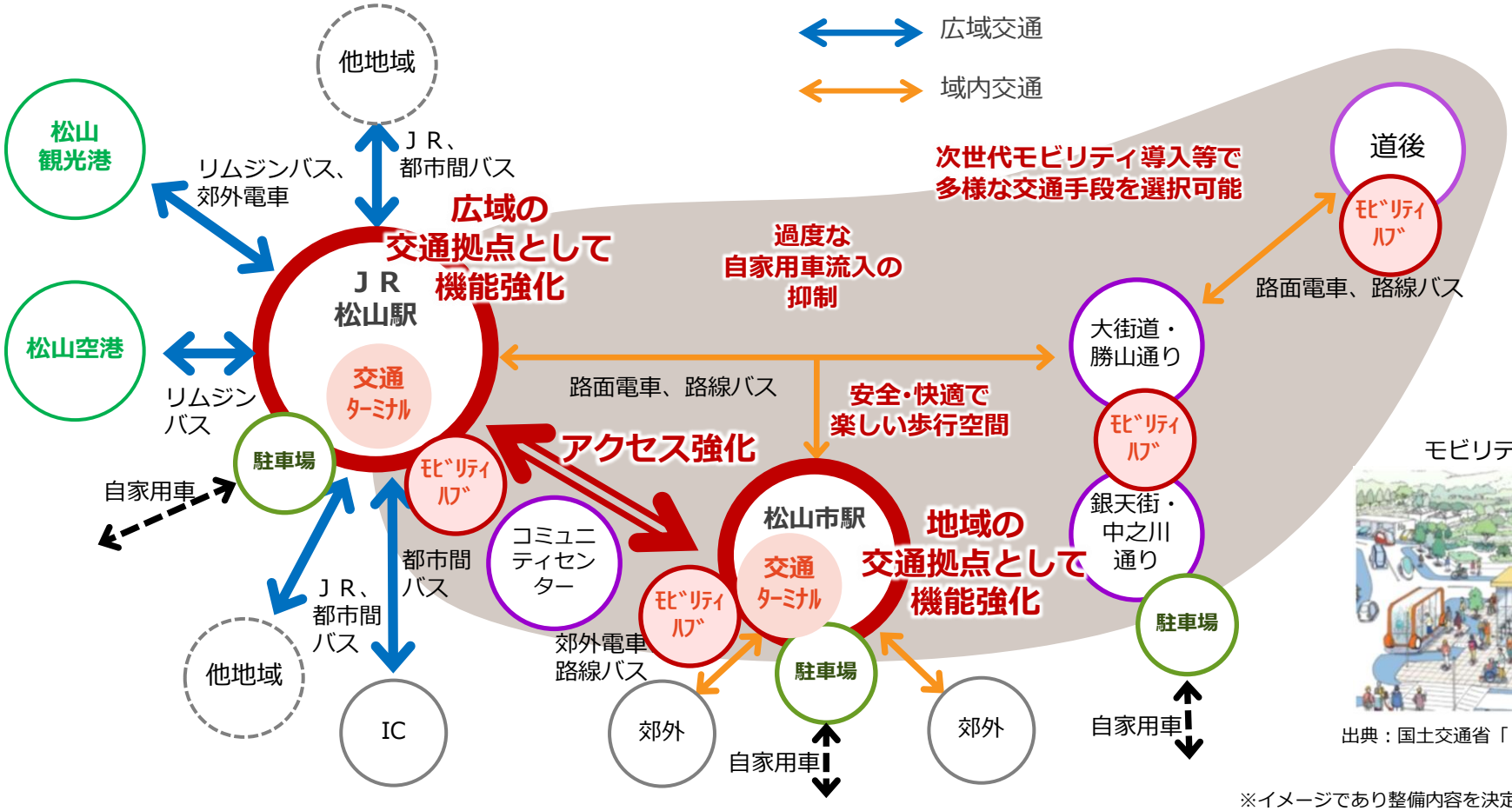


- 鉄道や高速バスの出発まで快適に過ごせる待合空間の充実
- 長時間の移動に備えた飲食やシャワーのできる店舗や空間
- 地域の特産の購入ができる店舗
- 被災地支援のための人の出発拠点

3. 交通結節機能強化の考え方

○ 中心市街地内にモビリティハブを配置し、次世代モビリティ等の導入により、多様な交通手段で面的にスムーズにつながるとともに、フリンジ部に駐車場を配置するなどにより、中心市街地内への過度な自家用車流入を抑制、また、安全で、快適で、歩いて楽しい歩行空間を整備することで、**松山の「歩いて暮らせるまちづくり」を推進**する。

○ さらに、県都の玄関口となるJR松山駅と、市民の日常生活を支える松山市駅の、それぞれの役割に応じた交通拠点の機能強化を行い、両拠点間のアクセス強化を図ることで、観光客にも市民にも移動しやすいまちを形成し、**まちの賑わい創出**を図る。



モビリティハブイメージ

出典：国土交通省「２０４０年道路の景色が変わる」

※イメージであり整備内容を決定するものではありません